



**PROFILE**  
りょう  
**小笹 棕さん** (19)

1996年生まれ。藤久保小・中学校出身。埼玉栄高校を経て、東洋大学に入学。現在は大学で寮生活を送っている。

ふるさとが大好きという小笹さん。三芳町で毎年開催している「新春ロードレース」や三芳町・富士見市・ふじみ野市の2市1町で開催する「入間東部地区駅伝競走大会」など地元のレースに積極的に参加してきました。



箱根駅伝の4区(平塚~小田原間)を走る小笹さん。声援が何よりのパワーの源になるという。

果たしました。そして東洋大学に進学。1年生にして箱根駅伝の4区のランナーに抜擢され、夢だった箱根の舞台に立った小笹さん。「1年生だから積極的に自分の走り意識して走りました。もっと走れると思っていましたが、実際は走れなかった反省を来年に活かしていきたい」と来年の箱根駅伝への抱負を語りました。箱根駅伝出場という目標を達成した小笹さんの今後の決意とは。「三芳町の友人、学校の先生などたくさん支えがあって今の私があります。よい結果を出し、ふるさと三芳町、そして応援してください皆さんに恩返しをしていきたいと思えます。」

**藤**

久保小学校の校庭の感触を懐かしみながら走る一人の学生の姿がありました。三芳町藤久保で生まれ育ち、今年の箱根駅伝4区を東洋大学のランナーとして走った小笹さんです。「箱根の舞台立つことが目標でした」と話す小笹さんは、生まれ

育った三芳町を愛しています。「三芳町が私を育ててくれました。小学校までは運動が苦手でしたが、藤久保のときに友人が陸上部に入るといので一緒に入部したところ、顧問の仲田先生の指導や家族の支えなどがあり、走る楽しさを知りました」と汗をぬぐいなが

「走り」でふるさとに、恩返しをしたい。

ら語る小笹さん。

**運動が苦手な少年が箱根駅伝を走るまでに**

走る楽しさを知った小笹さんは、苦手だった運動が大好きに。次第に頭角をあらわし、中学3年生の時に個人3000メートル走で全国大会に出場。埼玉栄高校に進学した3年生の昨年、第20回全国都道府県対抗男子駅伝の埼玉県代表選手7人の一人として5区を走り、埼玉県初となる全国優勝を



5年前に撮影した藤久保中学校時代の部活練習風景。小笹さんは最左。この時の夢は「箱根駅伝出場」だった。



Photo by Sho Fujimaki



Photo by FUNSEISS

(写真上) 埼玉県飯能市の子ノ権現のお寺をバックに疾走する奥宮さん。非日常を走りながら、体感することができるのがこの競技の醍醐味。(写真下) 海外でも活躍。雪が残る山道を笑顔で走り抜ける。今年7月にスイスで行われた「Eiger Ultra trail」のレースの一コマ。



**PROFILE**  
しゅんすけ  
**奥宮 俊祐さん** (37)

1979年生まれ。東海大学卒。「Fun Trails」代表。ハセツネCUPで何度も好成績を収め「ミスターハセツネ」の称号を得る。

Photo by Sho Fujimaki

子どもが夢見る道を築いていきたい。

**山**

道をカモシカのように駆け抜ける——。プロのトレイルラン

ナーとして活躍する町在住の奥宮俊祐さんは東京都世田谷区で生まれました。「レース中に三芳町を思い出すことがあります。やはり自然が豊かな町は魅力的。それでいて都内から近いのは都会で育った私にとっては、どちらも魅力。この町に住んでよかったです」と町の魅力を笑顔で語る奥宮さん。箱根駅伝出場をめざし、夢中で駆け抜けた学生時代。その夢は叶いませんでしたが社会人になって「走る楽しさ」を忘れたことはなかったと言います。

**走る楽しさと喜び**

「26歳の時、学生時代から不調だった心臓の手術をしました。それから全力で走ることができるようになり『走ることがこんなに気持ちがいいものなのか』と生まれ変わったかのような気分になりました」と話す奥宮さんの転機は2005年。71・5kmの山道を夜通し走る「第13回日本山岳耐久レース」に出場し、初レースで3位に輝きました。トレイルランナー奥宮俊祐の誕生です。「泥だ

らけになりながら山道を駆け抜けていると、自分と自然が一体となる不思議な感覚になりました。そしてなんて楽しいスポーツなんだらうと思いついて、トレイルランニングの虜になりました。そして昨年ついに、10度目の挑戦となった日本最高峰のレース「ハセツネCUP」で優勝を果たし、夢だった日本一の称号を得ました。トレイルランニングを通じて「楽しい」を届けたい。その思いから2015年3月に独立し、「Fun Trails」を立ち上げました。「中学生くらいの子を連れてお母さんが『うちの子が奥宮さんのようにトレイルランナーになりたいと言ってます』と聞き、子どもに夢を与えたいと思い独立を決意しました。子どもたちが『プロのトレイルランナーになりたい』と思えるように、この競技の楽しさを伝えながら、子どもたちが夢見る道の軌跡を残して、その道を築いていきたいと思えます」と目を輝かせる奥宮さん。今後の目標を最後にうかがいました。

「大好きな三芳町。自然を活かしたマラソン大会を町内で行い、走る楽しさと埼玉県三芳町を世界にPRできればと思います。」